

第1章

神性復活

神性復活……精神文明へのパラダイム 6

神性復活に向け、習慣を変える 25

第2章

一人一人は無限なる叡智を宿している

自己を見つめる 48

人類は宇宙神の光の一筋 67

第3章 つながり合う世界 つながり合う意識

意識は現実を創造する力 84

宇宙を形成するテクノロジー——意識とDNAの関係 93

第4章 神人の生き方

誇り高き神人の生き方 118

現象を掴むか、神性を掴むか 134

第1章  
神性復活



# 神性復活……精神文明へのパラダイム

(二〇一五年『白光』五月号)

## 地球の次元上昇と進化創造のうねり

世界人類は、今まさに個々に進化創造を遂げようとしています。すでにそのうねりは始まっており、いよいよ一人一人が、宇宙大進化の潮流に乗る時に来ているのであります。

なぜならば、地球の次元上昇と共に、富や名誉やバックグラウンドといった外面の物質的豊かさよりも、内面に重きを置く精神的に目覚めた人々、自らに備わ

つっている神性<sup>神</sup>を思い出した人々が各所で生まれ始めているからです。政治、経済、教育、科学、芸術、文学、医療、メディア等々……さまざまな分野の中から、人種、民族、国家、宗教宗派、主義主張を超えて……。人類の多くがますますスピリチュアルな生き方に目覚め、神性を見出し始めた時、世界は変貌を遂げます。それも徐々にではなく、一気にです。

人々は、これまでの常識や知識を超えたところに存在する直観や叡智を自覚し始め、それらを発現させる方向へと強く導かれてゆくのであります。善なる心で愛と徳の生き方を貫く高次元意識の人々が増えるにつれ、どのような苦悩や困難といえども、自分たちに内在する叡智や能力で、それらを克服する力が他の人々の中にも現わされてくるのです。

それは、人類一人一人は、他と決して遊離しているものではなく、すべての生命と全く一つに結ばれており、世界の国々、人々はみな、空間によってつながっているからであります。

## 固定観念を手放し覆す

人類創生時、宇宙神は自らの分身として、その光の一筋を、波動を粗くしてゆくことで肉体界にも人間を誕生させました。当初の肉体人間は、宇宙空間（天地）を自由に行き来し、誰もが無限なる能力、叡智を出し合つて、自らの言霊により地上に善いもの、役立つものを次々と創り出していました。各々が個性や特性を生かしながら、発明する感動、創造する喜びに浸り生きていたのです。

だが時を重ね、地上の波動に慣れ物質化が進んだ人類は、横のつながりの発展に伴つて自我意識を強くし、自他一体感を忘れてゆきました。その歴史のプロセスにおいて、真理や神の光を心の奥底にしまい込み、天地（縦）のつながりを忘れ去つていったのです。同時に、現象的な利害損得の勘定に秀でた者と、そうでない者との差が生まれ、対立や差別が生じるようになったのでした。

やがて人間同士で暴力や闘争を繰り返すようになり、多くの物質や権力を持つた者が人々を支配するようになったのです。この危機を救うべく、神々の憂い

を感知した聖者、賢者、宗教家たちは、学問や哲理を学び取り、また必死に祈り、天の理を修めました。そして虐げられた善人たちの救済のために、かつまた真理を無視した強欲な権力者たちの戒めのために、この世の法則（ルール）として輪廻転生説、原因・結果という因果律を誕生させたのでした。

「自らが犯した行為は、すべて自分自身が受け取る」という法則です。この法則が実に長い間、人々の魂の中に深く刻印されつづけ、今日にまで及んできたのです。だが、人類の進化のプロセスとは言え、いつまでも過去の因縁因果に引きずられて生きつづけることを余儀なくされるならば、誰一人として真の救われには至りません。何度転生を繰り返そうと真の自由、真の幸せには届かず、自己の本質（神性）に到達することは叶わないのです。

しかし二十一世紀、霊文明、精神文明の時代に至り、真理に目覚めた人々の出現とともに、いよいよ人類の誰もが、因果律という固定観念を覆し手放す時が本格的にやってきたのです。生きるために働き、生きるために食べ、生きるために闘う人生ではなく、自らに内在する無限なる愛、無限なる繁栄、無限なる生命を

現わしてゆく人生へと替わつてゆくのであります。

### 精神的な成長を知る鍵

これまでの物質偏重の生き方は、自我欲望による自己主張以外の何ものでもありません。もう競争は充分であり、贅沢ぜいたくも必要ないので、それ以上に重要なのは、一人一人の精神を高め上げ、質を向上させた生活へと切り替えてゆくことでもあります。

精神的に成長できたか否かを知る鍵は、自分の人生の上に生ずるいかなる問題、さまざまな状況をどれだけ他に頼らず、自身の内なる力で解決できたか否かです。自分の失敗を決して他のせいにはせず、自分で責任を取れたか、否かであります。

そして家族や他の人々、社会や国家の中に競争意識がなくなれば、子どもたちは否定的な思想から全く解放されてしまいます。自由ののびのびと自分の好きな学問を、使命感を持って見出してゆける、お互いの個性や生命を尊重し合いながら、周りによい影響を与え合つてゆけるのです。また、どの親もプラス思考、ポ



ジティブ思考で生きてゆけるので、人々の中にあっても、その人の善いところ、優れたところ、自分ない輝かしいところを認め合い、尊敬し合って社会が成り立ってゆくのであります。

食事にしても、贅沢さを好む食生活から健康食を中心とした自然食に切り替え、自分の健康は自分で守ってゆく方向へと切り替えてゆくのです。生産者と消費者が協力し合って質の高い製品をつくり出し、自然の恩恵に与<sup>あずか</sup>った製品を食してゆくのであります。

品質が高くなると、自然と身体に毒が溜まらなくなるので、健康にもなつてゆきます。医者や薬に任せ、頼って生きる生き方ではなく、病気になるのは自分の日頃の生き方、習慣や悪癖によるものであるということが理解されるようになってゆくのです。さらには、逆に病気になることによって、病気を恐れる代わりに、善い方向へと運命が変えられるチャンスとして受け取り、心から喜べるようになるのであります。

人類は贅沢さえしなければ、必要以上に物を蓄えさえしなければ、世界全体に

食も住も廻せるのです。それゆえ、もう既に物質を充分に持てる人は、今以上の物質を欲することなく、他の人々が共に生きられるような生き方へと意識変革すべきであるのです。高いレベルの意識で、それ以上求めることを、自らを規制してゆくならば、他の人々も、それ以上何を争い、死に物狂いになつて有限なる物質を掻き集める必要があるのだろうか、気づいてゆくのであります。

### ワンネスを導く真実の祈り

人間は誰も、一人で生きられるものでも、一人で生きているものでもないのです。一つ一つの部分が集まって全体を構成している、いわばパズルの一片であります。どの一片が欠けても完全なる形には決してならないのです。

すべての人がお互いの多様性を認め、お互いに助け合い、理解し合い、分かち合つてこそ、それぞれの生命を完うすることが出来るのです。従つて、自分のことのみを考えて生きることとは、自分のためならず、であるのです。出来る限り、人のこと、人類のことを念頭において生きるべきであるのです。

人間は、元は一つ、ワンネスだからであります。生命として一つに結ばれ、切り離すことは出来ないのです。異なる言語、異なる文化、異なる宗教、異なる理念、心情で生きているにせよ、人間の生命は何一つ違っていません。人種、民族国による違いも決してないのです。たとえテロリストであつても、全人類一人一人の生命の重さ、貴さ、尊厳の大切さは誰一人変わらないのです。

そもそも、この宇宙に対立、悪なるものなど存在しないのです。すべての対立は、人類の心の中にのみ存在しているものであり、悪とは、限りなく限りなく、果てしなく低い善の現われであり、真理からほど遠く、完全なる光を体験していない心の中の影なのです。

それゆえ、真理に目覚めた人々が真の祈りにより、闇に覆われ堅く閉ざされた彼らの心の中に、魂に光を送ることが最も大切なのです。愛と思いやりのひびき、慈しみのエネルギーを放ちつづけてゆくのであります。

真の祈りとは、人間を真実の生き方に導くものです。赦しであり、寛容であり、慈愛です。不安、恐怖を意識的にコントロールし、自己限定を解き放つものです。

天に、地に、山に、海に、動植物に……生きとし生けるものすべてに感謝を捧げることであり、それらと全く一つに結ばれ、お互いの生命を生かし合つてゆくこととあります。そして、失つてしまつている光、真理を再び復活させ、本来の神意識（神性）を目覚めさせるものです。真実の祈りとは、人類の魂の栄養であり糧なのであります。

### 人生の目的と人類の使命

世界を変え、動かし、世界を真に平和にするのは、人類一人一人の働きなのです。そのためにも人類一人一人の思考の転換、意識改革が今こそ必要なのです。一人一人が心して、自らの誕生を、自らの存在を、そして自らの生の何たるかを改めて考えるのであります。

人類はみな、宇宙に属し、地球に属している、同じ宇宙人であり、地球人であります。平等に存在している空気や水や大地を共有し、同じ輝き、同じ光を頂いて生きている同じ人間です。

人類一人一人は、永遠の生命を持つ崇高なる存在、生命体であり、誰もが永遠につながっているのであります。地球存続のため、世界人類の平和のために、強い絆で結ばれているのです。誰もが、ダイバイン・スパーク、宇宙神の光の一筋なのであります。

宇宙神とは、全知全能であり、無限なる愛そのもの、無限なる叡智、歓喜、繁栄、エネルギーそのもの、パワーそのもの、すべての本源であります。その光の器である肉体に、愛や真、善なる心、即ち、神性を自己実現してゆくことこそ、肉体人間に与えられている最大の天命、ミッションなのです。自分自身が他のすべてと調和し、輝かしい姿を自らの仕事や働きを通し、世に顕現してゆくのであります。

人類のゴールとは、その自己の真実である神性を見出し、取り戻すことにあるのです。また自身の魂の探求に向けての努力こそ、真の人生であり生きる目的なのであります。

## 自他の神性を認め信じる

戦争も、貧困も、抑圧も、飢餓も、難民も、すべては人類一人一人の心の中にある差別や対立、偏見に端を発しているのです。この差別や対立、偏見こそ、世界におけるすべてのトラブルの元であるのです。他を差別するという心は、自分  
が他より劣つてはいない、勝つて（勝つ）いるのだという思い込みがあつて生じてくるものであるからです。自分と他との間にある、能力の差、貧富の差、学歴や家柄の差を無意識のうちに感じ取り、比べてしまうのです。そして人と比較してしま  
うからこそ、心の平和が乱され、不平不満や葛藤が生じてくるのであります。

これは、人類一人一人の中に横たわっている自我によるものです。だが、この「自分が」「私が」……という自己主張を、自他を比べ、競い合い、争うために行なうのではなく、自らの上に個性として、特性として積極的に生かしてゆけば、素晴らしい自分自身を創造してゆくことが出来るのです。他人と比べるのではなく、過去の自分より、昨日の自分より、もつともつと立派になりたい、明るくな

りたい、愛深い人間になりたい……と自分を高め上げるために、すべての物事に積極的に取り組んでゆく姿勢が尊いのであります。

そのためにも、自身の内に無限なるものすべてが存在しているという真実を認めるのです。自分の中の神性を信ずるのであります。自らの神性を本当に認識した時、他の人の神性も認めることが出来るようになるからです。そこで初めて自分と他の間の差別や対立、偏見が消えるのです。自らの本質は、悪ではなく善であること、愛そのもの、調和そのもの、光そのものであること、すべての苦悩や困難はよくなるための「消えてゆく姿」であるということを学び、信じることにより、誰もが自らに内在する神性を顕してゆけるのであります。

そして虚栄や虚心の全くない、生きているそのまま、生かされているそのままで自由に生き生きと生きるのであります。何事にも把われることなく、自分が本来にしたいように思い切つて生きるのです。常に他人の迷惑を考え、ああではないか、こうではないか……と自分の尊い生を小智才覚によつて生きることが、自らの生命を抑圧していることになるのです。肉体人間の「小智才覚」の想いを巡らせ

なくなつた時、人は誰もみな、叡智や直観力を發揮した神智のままの生き方が出来るのであります。

### 運命を変える信じる力、心の力

人類一人一人が、悔いのない幸せに満ちた人生を生き切るには、自らの心から「出来ない、無理だ、不可能だ」……といった否定的感情想念を出来るだけ排除してゆかねばなりません。意識して自らの発する言葉や感情想念を「絶対大丈夫、必ず出来る、ますます幸せになる、良くなるばかりである」……と光明なるものに変え、プラス思考、光明思想まで生きるのです。光明思想とは、大いなる希望、目的、無限なる繁栄、幸せ、成功、平安……といった、魂からほとばしる歓喜の想念であります。

人は誰も、自分の意志や言葉、行為によつて、すべての現象を自らの運命に引きつけ、人生を創造しているからです。自分について思い込んだ通りの者になるからであります。信じたものが、そのまま現われてくるのです。疑ったことが生



じるのです。それほどまでに信じる力、心の力は偉大であり、何を信ずるかによつて人生は幸にも不幸にも別れるのです。心は何かを決めたならば、即その方向へと働き出すのであります。それゆえ、常に自分が何を掴み、何を自分のものにしてゆくかが大事になるのです。

自分は自由だと信ずれば本当に自由になり、縛られていると思えば本当に縛られるのです。愛を信じれば愛が、調和や平和を信じれば調和や平和が、自らの運命に生じるのであります。運命とは、まさに自分の信念の投影なのです。信念はパワーであり、エネルギーです。

それゆえ、自らのエネルギーの正しい使い方により、いくらでも運命を方向転換することが出来るのです。自分の欲望を達成することのみに、自らのエネルギーを消耗せず、かつまた感情想念の赴くままに衝動的に行動に移さず、いったん心を鎮ませ、内なるエネルギーの正しい方向性を定め、配分に心がければよいのです。

一瞬、一瞬の自分の言葉や想念、思考、行為を善なるほうへ、素晴らしいほう

へ、希望あふれるほうへと選択しつづけ、決定してゆくのです。完璧なもののみ、健康のみ、繁栄のみ、成功のみを未来に刻みつづけ、明るく調和した輝かしい未来を受け取るのであります。

### 物質と精神が調和した世界観の浸透

これからは、人類一人一人の精神、意識で常識のレベルを次元上昇させてゆくのであります。人生は辛く悲しいものである、肉体がすべてである、死んだら終わりである……という常識を変えてゆくのです。

人類の精神、意識は、運命を、環境を、肉体を、そして社会を、国を……すべてを変え、進化創造させることが出来るのです。真剣に意識を集中するならば、すべてが可能になるのです。自らの内部の中心核、神性につながるからであります。

そして、常識のレベルが引き上げられると、分離していた科学と宗教が一つに融け込んでゆき、世界の情勢、環境が好転してゆきます。これまで物質世界のもの

み留まっていた科学。一方、精神世界にのみ偏っていた宗教。これらの二つが統合されて、新たな第三の統合波を創造してゆけるのです。

それにより人類の思考過程が大きく変化してゆく兆しとなるのです。五感では体験したことのない事柄に関しても、自らに限界や制限を設けることなく不可能を可能にしてゆく人々が現われ、増えてくるのです。これは、地球の次元上昇にとつて大いなる力となり、働きとなるのです。物質と精神が調和した世界観が浸透し、かつての常識が根本から変わってゆくのであります。

例えば、否定的想念を発したとしても、自他の幸せと繁栄を心から願う目覚めた人々が築き上げた、光明の共磁場の作用により、本来ならば、真理を学ぶ材料であるはずの悪い結果をもたらす前に、極々少く消してゆけるのです。マイナス想念の共磁場の波長と合わなくなるからです。こうして、これまでの絶対的法則であった因縁因果の法則が覆されてゆくのであります。

これが当たり前となり、新たな習慣となれば、人類の言葉、想念、行為が光明化され、意識は常に良いもの、光明なるものに引きつけられるようになってゆき

ます。誰の心の中からも悲しみや怒りを誘い出す外的条件が自然に取り除かれ、善なる言葉、想念だけを発し、行ないに現わせるようになるのです。そして、この現象が、人から人へと次々に広がり、世界中に行き渡るようになるのです。なぜならば、日頃、人類一人一人が発している言葉、想念、行為はすべてバイブレーション（波動）だからであります。

### 神性復活——精神文明へのパラダイム

人類は今、みな一つになって、大きな障害、混沌とした危機的、破壊的な状況を乗り越えてゆくのです。人類の福利と生存を脅かす環境破壊や異常気象をはじめ、社会、医療などの大問題の解決を計り、乗り越えてゆくのであります。

今こそ、世界中のすべての人々が平和を追求するのに相応しい時であるのです。世界人類一人一人が一つに融け合って、全く新しい平和世界を創造し、築いてゆくのです。三次元、物質偏重主義の世界から、より高度な四次元、神性顕現の世界へと入ってゆくのであります。

そのためにも、既に神性復活を果たし、精神的な生き方を自己実現している高次元意識の人々から率先して、人類に真理の目覚めを促進してゆくのであります。万物一切の進化向上を計り、それに向けて無限なる愛を注ぎ、未来に夢と希望を託す絶対なる光明思想の生き方に、人類を導き入れてゆくのです。「こんなに幸せで、こんなに満ち足りて、こんなに健康で、こんなにすべてのことが調つていて勿体ないくらいである」と、感謝と至福に満ち溢れて生きる高潔なその姿に、多くの人々は共鳴し追従してくるのであります。

人々は、自らの神性を知り、本心に目覚めることによつて、自己否定、自己被虐に陥っていた自分の思考を改め、自らの叡智や直観を導き出し、すべてを解決できると気づいてゆくのです。その体験によつて、人は自らを信頼できるようになり、過去の過ちや失敗に把われることなく、常に自らの本心、神性を見出し、その真理に沿って生きることが当然のようになってゆけるのです。自らが向上し、高め上げられてゆく喜びを感じて生きてゆけるのであります。何より、自分の内側には神性しかないと知る時、人は至福に満たされるのであります。もう何も恐

くはないからです。

そして人類一人一人は、自らの神性を顕現しつつ、すべての国境、人種、民族、宗教宗派を超えて、各々が属するあらゆる分野（国家、政治、社会、組織、宗教……）に対して、お互いに尊重し合い、認め合い、影響し合つて、真の統一体を形成してゆくのです。いかなる分離、対立、差別もない、闘いも争いもない、真理より編み出された世界秩序が確立された国家、都市、町を形成してゆくのであります。

世界人類が平和でありますように

すべては完璧、欠けたるものなし、大成就